

令和元年度第1回尾張旭市健康推進委員会 議事録〔要旨〕

【開催日時】

令和元年12月20日（金）

開会 午後1時30分

閉会 午後2時15分

【開催場所】

尾張旭市保健福祉センター2階 201会議室

【出席委員：11名】

安井 徹郎（瀬戸旭医師会）

古峪 秀樹（尾張旭市歯科医師会）

小川 浩平（旭労災病院）

額瀨 陽次（尾張旭市自治連合協議会）

相羽 かよ子（尾張旭市地域婦人団体連絡協議会）

久野 博行（尾張旭市体育協会）

石井 トシ子（尾張旭市健康づくり食生活改善協議会）

大山 也恵（愛知県健康づくりリーダー連絡協議会瀬戸支部）

木村 誠子（瀬戸保健所）

藤村 育子（公募委員）

荻野 史朗（公募委員）

【欠席委員：3名】

加藤 富士子（尾張旭市薬剤師会）

松浦 哲生（公立陶生病院）

若杉 里実（愛知医科大学）

【傍聴者】

なし

【出席した事務局職員等】

竹内健康福祉部長、臼井健康課長、加藤課長補佐、磯村課長補佐、宮下副主幹

【議題】

- (1) 第2次健康あさひ21計画の中間見直し及び今後のスケジュールについて
- (2) 中間直しに向けた取り組み状況について

【会議の概要】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 委員長、副委員長の選出
- 5 議題
- 6 その他
- 7 閉会

1 開会

<欠席委員、会議公開についての報告等>

2 あいさつ（健康福祉部長）

3 自己紹介

4 委員長、副委員長の選出

<委員長に安井委員、副委員長に古峪委員が決定>

5 議題

(1) 第2次健康あさひ21計画の中間見直し及び今後のスケジュールについて

<事務局より資料に基づき説明>

(2) 中間見直しに向けた取り組み状況について

<事務局より資料に基づき説明>

(委員長)

資料5の計画指標一覧（速報値）では、生活習慣病分野で、がん、循環器疾患や糖尿病の目標達成度に”×”が目立ち、生活習慣病予防に対する意識が少し薄れているという気がする。今年度のがん検診期間は終わっているが、来年度のがん検診に向けた啓発など、計画はあるか。

(事務局)

本市が「瀬戸旭医師会」に委託し実施しているがん検診の受診率は、国や県の平均よりもやや高い数字を維持しており、全体にその受診率は悪くない。この計画指標では、無作為抽出して実施した市民アンケート調査結果を用いていることから、結果が大きく異なっているものと思われる。

がん検診の受診率向上について言えば、生命保険会社と包括的事業連携協定を結び、営業活動の際に行政のがん検診の受診を勧めてもらっている。行政のみの単独PRではなく、民間の方々ともタイアップをしながら、知恵を絞って啓発に努めているところである。

(A委員)

同様に資料5の計画指標一覧で、循環器疾患や糖尿病であるが、これらの結果についてはアンケート調査結果からではなく、KDBシステムといった統計データが引用元であるということか。

特に、「糖尿病有病者率」の割合が男性、女性、全体ともに上昇しているの、5年でここまで変わるのか。基準値と比較して現状値が大幅に上昇しているの、実情と合っているか、統計上の母集団が異なっていないかが気になった。

(事務局)

KDBシステムの稼働が数年前からであるため、前回はどのようなデータの算出をしているのか一度確認してみたい。愛知県でも同様のデータを算出していると思うが、愛知県の結果の推移を比較対象として示せばより参考にもなるかもしれない。

(A委員)

通常、統計データであれば母集団の調整を行うと思うが、今回示された値は母集団の調整を行った上で算出されたものか。行政計画の見直しを行うためのデータであるため、数字の妥当性を担保されたい。

(事務局)

ご意見のとおり、前回の算出方法や母集団の調整について確認をしたい。

(B委員)

資料5、計画指標一覧の生活習慣病【糖尿病】で、「HbA1c6.5%以上の者のうち、治療中の者の割合」の現状値が59.5%で、基準値64.2%より減少しているが、これは良いことか、悪いことか。

(事務局)

HbA1c6.5%以上の人は定期的な治療が必要であるが、そのうち75%以上（より多い割合）の人が治療につながって欲しいというのが目標値が意味するところ。

(B委員)

その説明から、基準値より現状値が減少していれば、悪い傾向であると分かった。

6 その他

<次回会議日程、会議報酬について>

7 閉 会

以上